

教育学部 教員養成課程

教育学部 音楽教育コース

	到達目標	ディプロマポリシー			
		感じる力	考える力	コミュニケーション力	生きる力
教科教育科目	学生は、音楽科の授業実践が持つ意義を、その背景にある理論と関連づけて説明することができる。	○	◎	○	
	学生は、音楽科教育や関連諸領域に関する理論をふまえて、校種・学年に応じた学習指導案を記すことができる。	○	◎	○	
	学生は、音楽科教育に関する自らの見方・考え方を省察することを目的として、模擬授業等を行うことができる。	○	◎	○	
	学生は、学校音楽教育や学校外の音楽学習に関わる文化的実践について、将来におけるそのあり方を提示することができる。		◎	○	○
	学生は、校種・学年や児童・生徒の実態に応じて、音楽科の授業を実践することができる。	○	◎	○	
	学生は、よりよい音楽科の授業実践を創造するために、他者と協働することができる。		○	◎	○
総合科目・基礎科目	学生は、音楽の学びに関わる教育活動の価値を、自らの教育観に照らし合わせて述べるすることができる。	○	◎		○
	学生は、校種・学年や児童・生徒の実態に応じて、音楽科授業の学習支援を行うことができる。	◎	○	○	
	学生は、音楽科授業の学習支援をよりよいものとするために、他者と協働することができる。	○		○	◎

教科専門科目	ソルフェージュ	<p>【知識】 学生は、音楽理論及び読譜能力の基礎を習得することにより、音楽科指導で必要とされる楽典の内容について説明することができる。</p> <p>【態度】 学生は、音楽教育コースにおける各専門分野と大学で学ぶ学習内容の概要を知ることにより、大学生活に見通しを立て、将来の教育活動について考えていく力を示すことができる。</p> <p>【技能】 学生は、リズム打ち・視唱・視奏・リズムアンサンブル・様々な形態による聴音に関する各技能を習得することにより、音楽科指導で必要とされる基礎的な実技指導を行うことができる。</p>	○		○	◎
	声楽	<p>【知識】 学生は、ハーモニー・調性感・言葉の抑揚・音楽的な構成についての知識を身につけることにより、それらを音楽科指導で必要とされる声をあわせる（心通わせる）合唱指導や歌唱指導に利用することができる。</p> <p>【態度】 学生は、歌う側・指導される側の両面に立つことにより、歌唱を通してコミュニケーションをしたり音楽と向き合える態度を示したりすることができる。</p> <p>【技能】 学生は、独唱及び合唱の魅力をも自分自身が体感することにより、演奏者（児童・生徒）と楽しさを共有する合唱指導や歌唱指導を行うことができる。</p>		○	◎	○

	器楽	<p>【知識】 学生は、ピアノを主とする器楽演奏や伴奏及び器楽合奏の基礎を学び、実際にそれらを体験することにより、楽曲中における個々の演奏者の音楽的役割を説明することができる。</p> <p>【態度】 学生は、ピアノを主とする器楽演奏や伴奏及び器楽合奏において個々のテンポ・タイミング・ハーモニーなどを聴き合うことにより、他者と共に音楽表現を工夫し協調することができる。</p> <p>【技能】 学生は、音楽科指導における実技指導等に関するピアノ伴奏を行うことができるとともに、合奏に関する基礎的指導を行うことができる。</p>		○	◎	○
	指揮法	<p>【知識】 学生は、音楽教材を題材として指揮法を学ぶことにより、教育現場での演奏指導に必要とされる指揮の基本動作を分類し選択することができる。</p> <p>【態度】 学生は、習得した指揮法により、児童・生徒の表現意欲を喚起させ音楽を通じたふれあいを示すとともに、児童・生徒が音楽に親しむよう寄与することができる。</p> <p>【技能】 学生は、指揮の基本動作を学ぶとともにその動作の基盤となる楽曲分析の能力を身に付けることにより、児童・生徒の表現を引き出す指揮をすることができる。</p>		○	◎	○

	<p>音楽理論・作曲法・音楽史</p>	<p>【知識】</p> <p>学生は、機能和声に基づき楽節を分類することにより、音楽教材を含む実際の楽曲の和声と調性の仕組みを説明することができる。</p> <p>学生は、与えられた条件下に基づき唱歌形式及びソナタ形式による作品を作曲することにより、創作における音楽の構成法を身に付けるとともに、音楽形式を分類し説明することができる。</p> <p>学生は、西洋の芸術音楽及び日本やアジアの音楽の特質について、音楽様式・楽曲・演奏形態などの観点から把握することにより、その美的価値や表現の可能性を説明することができる。</p> <p>【態度】</p> <p>学生は、西洋音楽において最も基本的な理論体系である和声の基礎的知識を身に付けることにより、調性音楽を言語として系統立てることができる。</p> <p>学生は、音楽作品の分析方法を学び、それを実践することにより、音楽作品を客体化し系統立てることができる。</p> <p>学生は、世界の多様な音楽に触れることにより、異文化、多世代の人と連携・協力する姿勢を示すことができる。</p> <p>【技能】</p> <p>学生は、転調及び借用和音を含まない固有三和音及び属七・属九の和音を含むバス課題を実施することにより、音楽科指導で必要とされる基礎的伴奏譜を創造することができる。</p> <p>学生は、与えられた旋律を同声二部合唱曲及び器楽合奏曲に編曲することにより、音楽教材を開発し創造することができる。</p>		○	◎	◎
--	---------------------	---	--	---	---	---

		<p>きる。</p> <p>学生は、西洋の芸術音楽及び日本やアジアの音楽の特質について歴史を概観し知識を身に付けることにより、音楽を広い視野の中で享受し、音楽を通してそれぞれの文化や精神性について調べることができる。</p>				
--	--	--	--	--	--	--

教育学部ディプロマポリシー (DP)

三重大学教育学部は、学校現場における諸課題に対応できる実践的指導力を身につけた地域に貢献しうる教育人材を育成します。

教育学部は、次のような資質・能力を備えた人に対して、厳格な評価基準に基づいて学位を授与します。

・「感じる力」

教員に求められる使命や責任を理解し、幼児や児童生徒の心身の成長を支えることができる。

・「考える力」

教育に関する専門的な知識や技能に基づいて学級等を経営するとともに、授業等を計画・実践し、さらなる改善策を考え示すことができる。また、教育をめぐる諸課題を把握し、解決策を考え示すことができる。

・「コミュニケーション力」

子どもの多様性を認め、一人ひとりに配慮した教育を行うことができる。また、同僚、保護者、地域の人々と協働しながら諸課題の解決に取り組むことができる。

・「生きる力」

社会人としての教養や公正な態度、柔軟な思考を身につけ、地域社会の動向を踏まえながら、責任ある行動をとることができる。また、自己研鑽の必要性を理解し、主体的・自律的に学び続ける意欲や態度を有している。